

神奈川県金融経済概況（2016年2月）

I. 概況

神奈川県の景気は、緩やかに回復している。

すなわち、企業部門をみると、生産は足もと持ち直しつつあり、輸出も持ち直している。設備投資は増加している。家計部門をみると、雇用・家計所得環境は全体として改善している中で、個人消費は天候要因から一部に弱めの動きが残っているものの、全体としては底堅く推移している。この間、住宅投資は改善のテンポが鈍化しているほか、公共投資は減少している。

金融面をみると、貸出、預金ともに引き続き増加している。

II. 実体経済

(1) 生産： 足もと持ち直しつつある。

- ・ 輸送機械は、新興国向けトラックや国内向け乗用車が低調な一方、北米向けが好調なことから、足もとでは横ばい圏内の動きとなっている。
- ・ 素材関連は、石油製品や自動車向け素材が堅調なもの、窯業・土石などが弱めの動きとなっていることから、横ばい圏内の動きとなっている。
- ・ 電気機械は、電子部品・デバイスが大きく減少しているものの、自動車向け製品や外需向け基地局通信装置などが増加しており、足もと持ち直している。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、外需向け建機やはん用機械類の減少が続いているものの、半導体等製造装置が増加していることなどから、足もとでは持ち直している。

(2) 輸出： 持ち直している。

- ・ アジア向けなどに一部弱い動きがみられるものの、北米向けやヨーロッパ向けが自動車を中心に増加しており、全体として持ち直している。

(3) 設備投資： 増加している。

- ・ 15/12月短観における、15年度の設備投資計画は、新興国経済の不透明感などから一部投資を見送る動きが引き続きみられるものの、製造・非製造業ともに業容拡大を企図した増投資や新拠点・新店舗の設置が計画されており、全産業ベースでは大幅な増加が見込まれている。

(4) 雇用・家計所得環境： 全体として改善している。

- ・ 15/12月の有効求人倍率（勤務地ベース）は1.21倍と、前月の水準（1.19倍）を上回った。一方、15/11月の現金給与総額は前年比▲2.7%となった。

(5) 個人消費： 天候要因から一部に弱めの動きが残っているものの、全体としては底堅く推移している。

- ・ 百貨店売上高は、化粧品が引き続き好調なほか、食料品も底堅いものの、天候要因から衣料品が振わず、弱めの動きとなっている。
- ・ スーパー売上高は、食料品を中心として堅調に推移している。
- ・ 家電販売額は、高機能家電が引き続き堅調であるほか、季節家電も復調していることなどから、弱い動きが一服している。
- ・ 新車登録台数は、小型・普通乗用車における新型車投入効果がみられるものの、軽乗用車の集中的販促活動の反動等の影響が残っており、全体としては横ばい圏内の動きとなっている。

《参考》

- ・ 県内観光・レジャー施設の利用状況や、ホテル・旅館の稼働状況をみると、一部にまだやや弱い動きも残るが、多くの地域で堅調に推移している。

(6) 住宅投資： 改善のテンポが鈍化している。

- ・ 着工ベースで見ると、持家や分譲戸建ての改善テンポが鈍化しているほか、ウエイトの大きい貸家が弱い動きとなっている。

(7) 公共投資： 減少している。

- ・ 1月の公共工事請負額は、独立行政法人の大型案件が減少したことなどから、前年を下回っている。

Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、個人向けでは、住宅ローンを中心に引き続き増加しているほか、法人向けでは、資金需要に業種の拡がりが見られることから、引き続き前年を上回って推移（貸出金末残前年比： 15/11月+1.6%→15/12月+1.4%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、引き続き低下している（月末貸出約定平均金利： 15/11月 1.351%→15/12月 1.344%）。

(2) 預金： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金は、高いウエイトを占める個人預金で安定した伸びが持続しているほか、法人預金も伸びていることから、引き続き増加している（実質預金末残前年比： 15/11月+2.1%→15/12月+2.2%）。

以 上

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。